

3 年齢階級別の自殺者数の推移

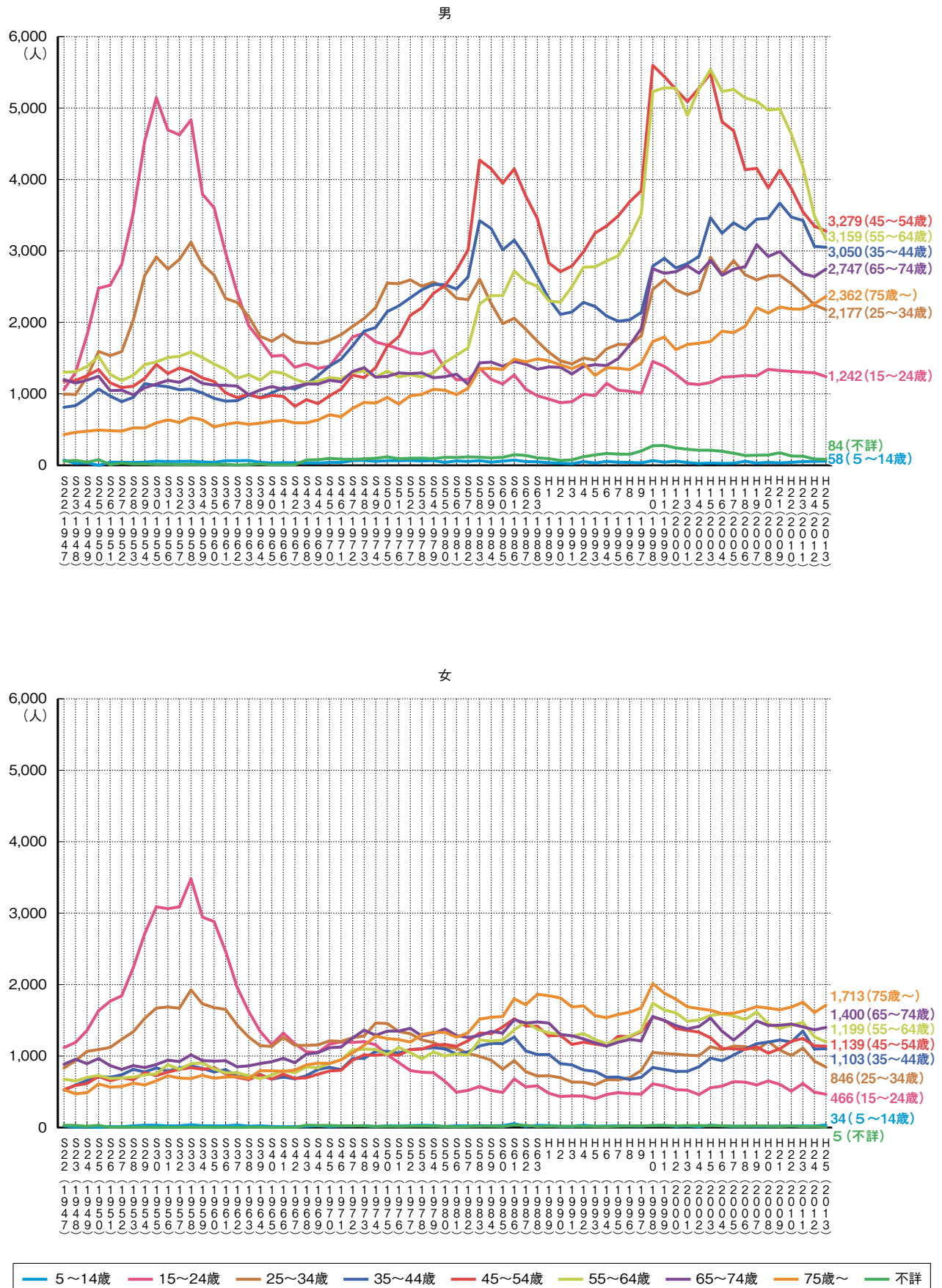
年齢階級別の自殺者数の推移について男女別にみると、人口動態統計によれば（第1-6図）、男性については、昭和30年前後に15～34歳の階級が、60年前後に35～54歳の階級が、平成10年以降に45～64歳の階級がそれぞれ大きな山を形成している。女性については、昭和30年前後に15～34歳の階級が山を形成した後は、男性のような大きな変動はみられない。

昭和30年前後は男女とも15～24歳及び25～34歳の階級で自殺者数が増加しており、先述したとおり戦後の社会の価値観の変化や戦時体験の影響とする説もある。60年前後は男性のみが増加しており、中でも35～64歳の働き盛りの中高年世代の自殺者が多く、円高不況

が原因という説もある。

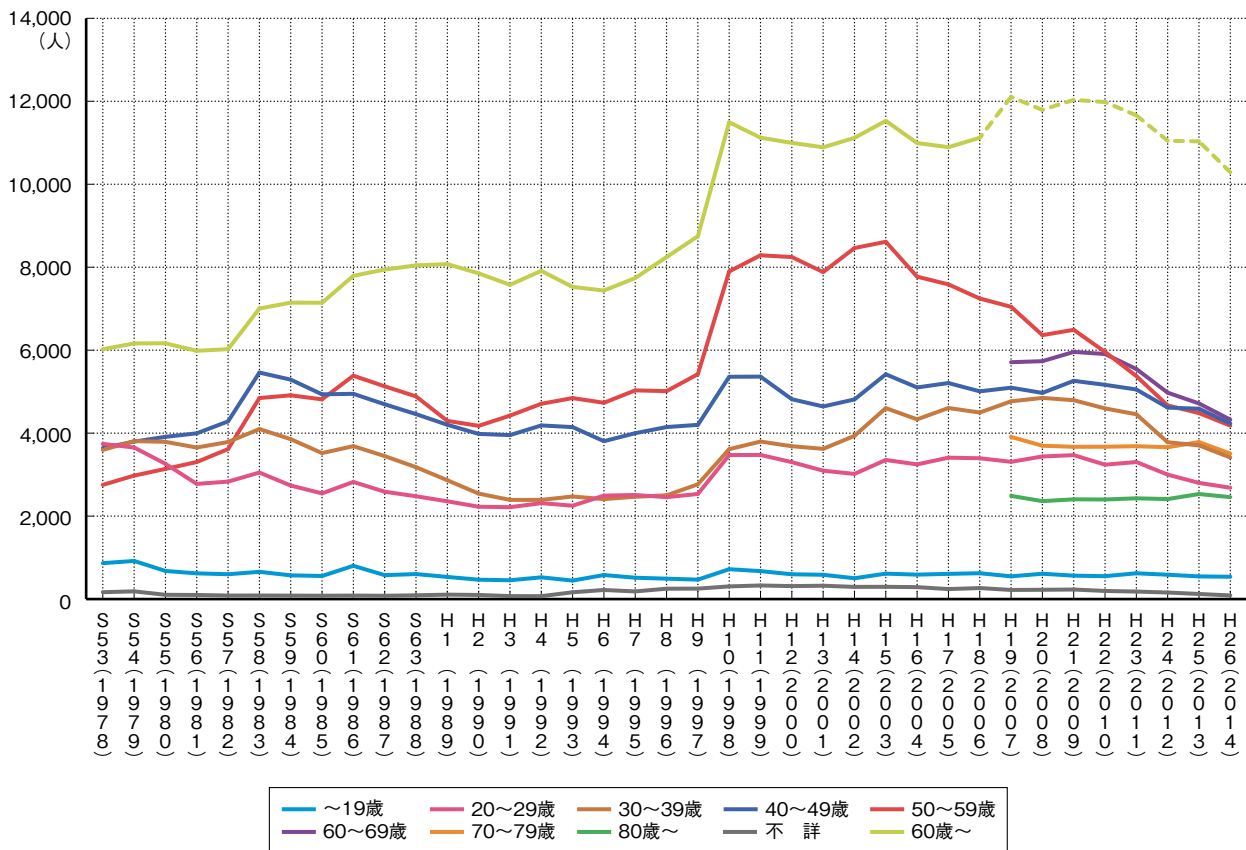
平成10年の急増では、特に男性の25～74歳の各階級で大きく自殺者が増加しているが、その後は25～34歳、35～44歳の階級は一旦増加した後、近年では減少しているのに対し、45～54歳の階級は15年を境に大きく減少し、55～64歳の階級も15年から減少傾向にある。また、65～74歳の階級は横ばいである。なお、75歳以上の階級は10年の際にもあまり急増せず、一貫してなだらかに増加している。自殺統計をみると（第1-7図）、近年50歳代は減少傾向にあり、年齢階級の設定が人口動態統計とは違うものの、おおむね同様の傾向を示している。

第1-6図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の長期的推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」より内閣府作成

第1-7図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移



注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。

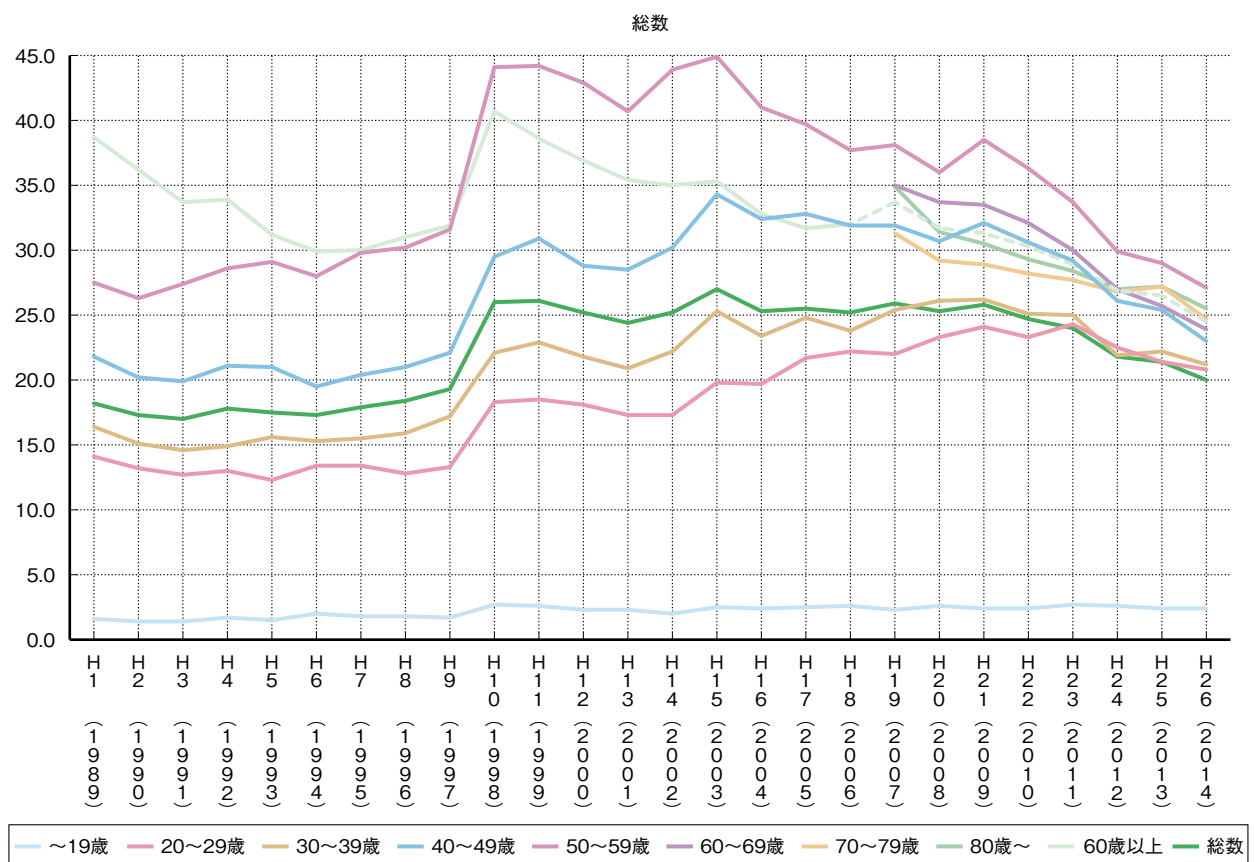
資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

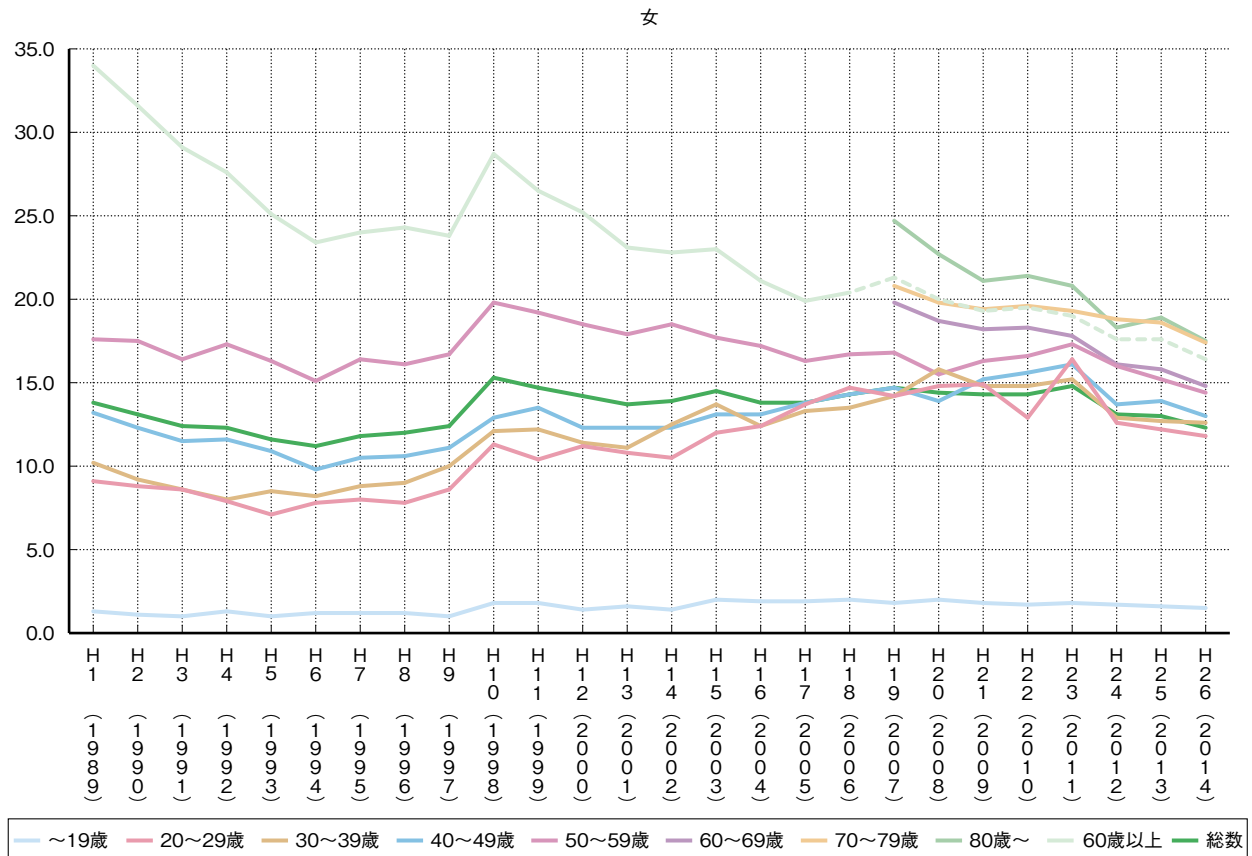
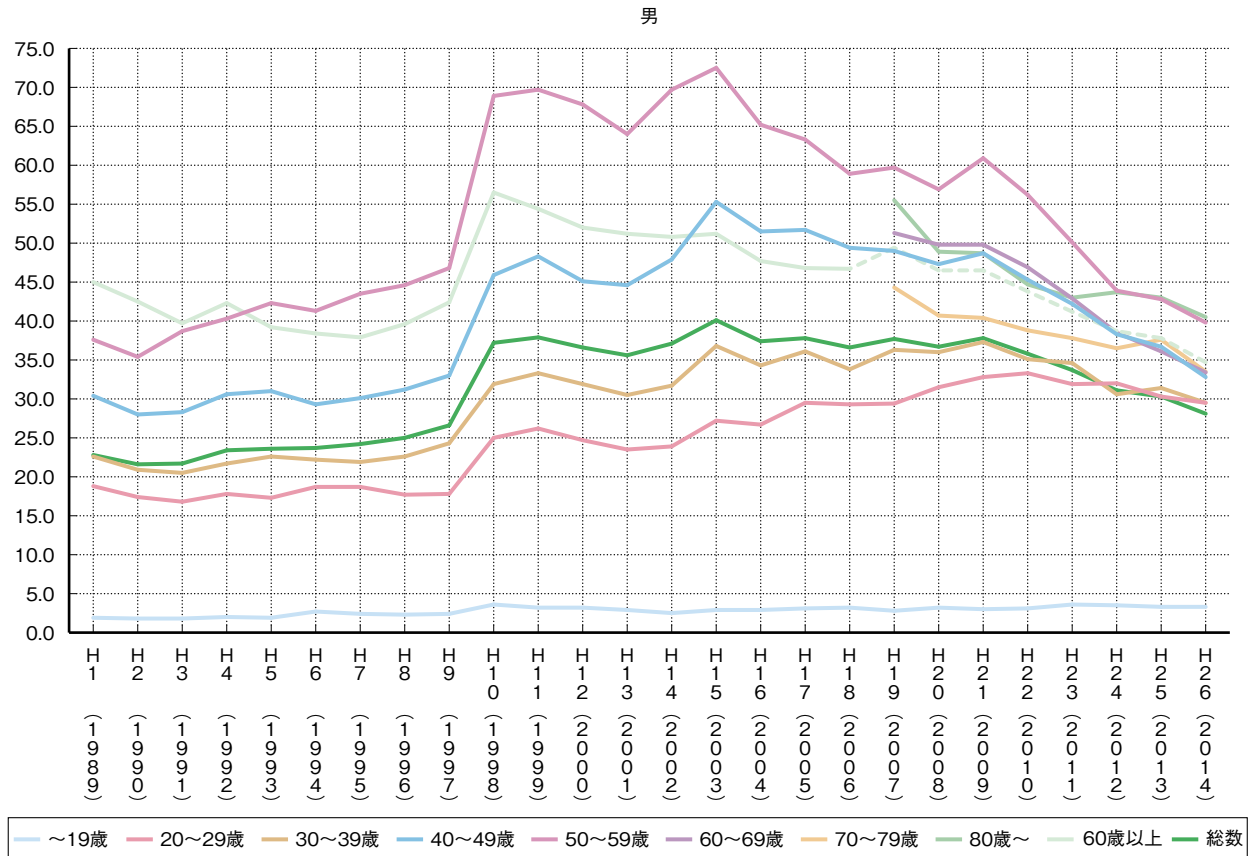
年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-8図）、全体的には40歳代以上では低下傾向にあり、ここ数年は20歳代、30歳代も低下傾向にある。また、20歳代未満では平成10年以降おおむね横ばいである。さらに、男女別にみると、男性は、20歳代が10年以前から一貫して上昇していたが、23年以降は低下を続けており、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降

は低下している。女性は50歳代以上は低下しており、その他の年代では上昇傾向にあったが、24年には低下している。

以上より、自殺死亡率は平成10年に急上昇しその後も高止まりしてきたが、その要因は「中高年男性の自殺死亡率の上昇」だけで説明できるものではなく、変化があることが分かる。

第1-8図 年齢階級別の自殺死亡率の推移





注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」、総務省「国勢調査」及び総務省「人口推計」より内閣府作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-9表）、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性では15～44歳という、学生や社会人として社会を牽引する世代において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも15～34歳の若い

世代で死因の第1位が自殺となっている。

こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-10図）、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国では日本のみであり、その死亡率も他の国に比べて高いものとなっている。

第1-9表 平成25年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	97	1.7	20.8	自殺	91	1.6	19.5	不慮の事故	67	1.2	14.3
15～19歳	自殺	455	7.6	35.9	不慮の事故	336	5.6	26.5	悪性新生物	149	2.5	11.8
20～24歳	自殺	1,253	20.9	51.7	不慮の事故	411	6.8	17.0	悪性新生物	176	2.9	7.3
25～29歳	自殺	1,424	21.4	49.2	不慮の事故	367	5.5	12.7	悪性新生物	301	4.5	10.4
30～34歳	自殺	1,599	21.5	40.9	悪性新生物	635	8.5	16.2	不慮の事故	419	5.6	10.7
35～39歳	自殺	1,981	22.2	30.8	悪性新生物	1,496	16.8	23.2	心疾患	635	7.1	9.9
40～44歳	悪性新生物	2,872	30.2	28.4	自殺	2,172	22.8	21.5	心疾患	1,193	12.5	11.8
45～49歳	悪性新生物	4,691	56.7	33.4	自殺	2,207	26.7	15.7	心疾患	1,761	21.3	12.5
50～54歳	悪性新生物	8,209	107.5	39.9	心疾患	2,558	33.5	12.4	自殺	2,211	29.0	10.7
55～59歳	悪性新生物	14,260	186.2	45.5	心疾患	3,822	49.9	12.2	脳血管疾患	2,464	32.2	7.9
60～64歳	悪性新生物	30,908	321.7	49.1	心疾患	7,667	79.8	12.2	脳血管疾患	4,384	45.6	7.0

男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	59	2.0	20.8	自殺	57	1.9	20.1	不慮の事故	47	1.6	16.5
15～19歳	自殺	321	10.5	36.6	不慮の事故	262	8.6	29.9	悪性新生物	89	2.9	10.2
20～24歳	自殺	921	29.9	53.4	不慮の事故	318	10.3	18.4	悪性新生物	104	3.4	6.0
25～29歳	自殺	1,037	30.5	51.6	不慮の事故	295	8.7	14.7	悪性新生物	150	4.4	7.5
30～34歳	自殺	1,140	30.1	45.0	不慮の事故	327	8.6	12.9	悪性新生物	259	6.8	10.2
35～39歳	自殺	1,451	32.0	34.9	悪性新生物	610	13.5	14.7	心疾患	523	11.5	12.6
40～44歳	自殺	1,599	33.1	24.5	悪性新生物	1,234	25.5	18.9	心疾患	943	19.5	14.5
45～49歳	悪性新生物	2,170	51.9	24.0	自殺	1,623	38.8	17.9	心疾患	1,400	33.5	15.5
50～54歳	悪性新生物	4,302	112.3	31.8	心疾患	2,030	53.0	15.0	自殺	1,656	43.2	12.3
55～59歳	悪性新生物	8,500	223.3	40.0	心疾患	3,060	80.4	14.4	脳血管疾患	1,699	44.6	8.0
60～64歳	悪性新生物	19,950	423.4	45.7	心疾患	5,950	126.3	13.6	脳血管疾患	3,106	65.9	7.1

女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物	38	1.4	20.8	自殺	34	1.2	18.6	不慮の事故	20	0.7	10.9
15～19歳	自殺	134	4.6	34.2	不慮の事故	74	2.5	18.9	悪性新生物	60	2.1	15.3
20～24歳	自殺	332	11.4	47.6	不慮の事故	93	3.2	13.3	悪性新生物	72	2.5	10.3
25～29歳	自殺	387	11.9	43.8	悪性新生物	151	4.6	17.1	不慮の事故	72	2.2	8.1
30～34歳	自殺	459	12.6	33.4	悪性新生物	376	10.3	27.3	不慮の事故	92	2.5	6.7
35～39歳	悪性新生物	886	20.2	38.9	自殺	530	12.1	23.3	不慮の事故	134	3.1	5.9
40～44歳	悪性新生物	1,638	34.9	45.4	自殺	573	12.2	15.9	心疾患	250	5.3	6.9
45～49歳	悪性新生物	2,521	61.5	50.3	自殺	584	14.2	11.7	脳血管疾患	394	9.6	7.9
50～54歳	悪性新生物	3,907	102.6	55.2	自殺	555	14.6	7.8	心疾患	528	13.9	7.5
55～59歳	悪性新生物	5,760	149.6	56.9	脳血管疾患	765	19.9	7.6	心疾患	762	19.8	7.5
60～64歳	悪性新生物	10,958	223.9	56.8	心疾患	1,717	35.1	8.9	脳血管疾患	1,278	26.1	6.6

注意：構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

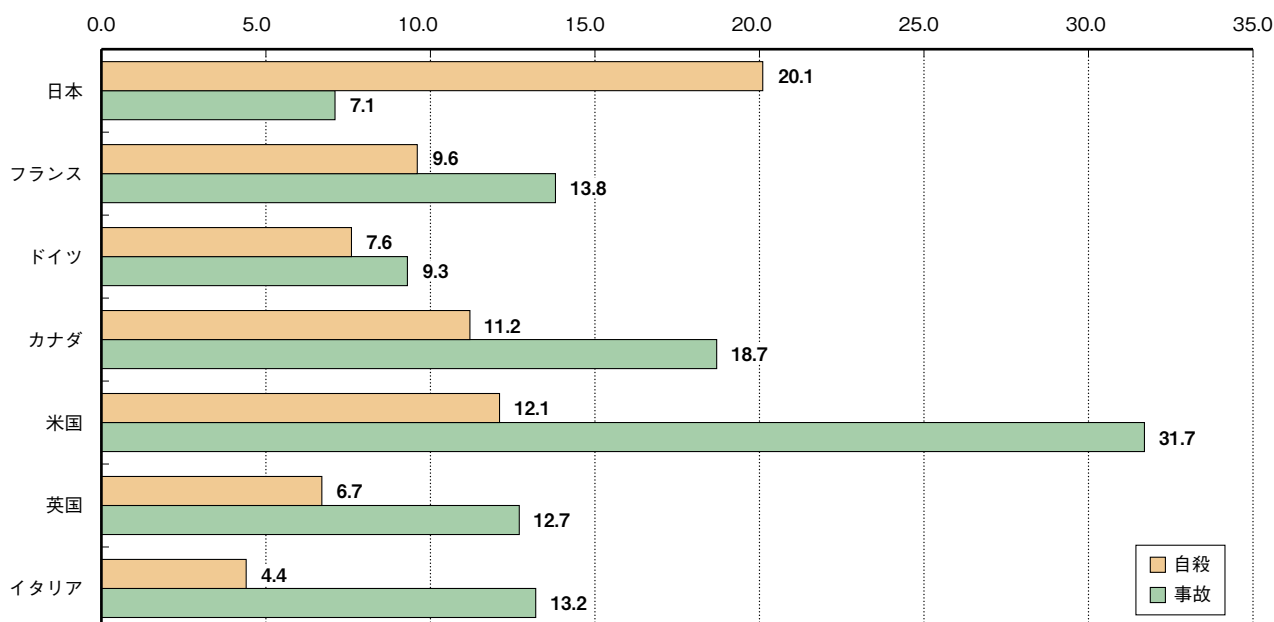
資料：厚生労働省「人口動態統計」より内閣府作成

第1-10図 先進7カ国の15～34歳における死亡者数及び死亡率（死因の上位3位）

	日本 2011				フランス 2010				ドイツ 2012				カナダ 2009			
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率
第1位	自	殺	5,436	20.1	事	故	2,136	13.8	事	故	1,772	9.3	事	故	1,721	18.7
第2位	事	故	1,916	7.1	自	殺	1,484	9.6	自	殺	1,446	7.6	自	殺	1,035	11.2
第3位	そ	の	他	5.5	R00-R99※		1,064	6.9	悪	性	新	生	物		502	5.5

	アメリカ 2010				イギリス 2010				イタリア 2010				韓国（参考） 2011			
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	
第1位	事	故	27,171	31.7	事	故	2,071	12.7	事	故	1,806	13.2	自	殺	3,160	22.2
第2位	自	殺	10,339	12.1	自	殺	1,096	6.7	悪性新生物		931	6.8	事	故	1,488	10.4
第3位	殺	人	9,000	10.5	悪性新生物		1,032	6.3	自	殺	598	4.4	悪性新生物		901	6.3

※ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類の第10回修正版）の第18章「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に該当するもの



注)「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者数をいう。

資料：世界保健機関資料より内閣府作成